

定年退職の五教授を送る

経済学部長 石井伸男

この3月末をもって、武井昭、山崎益吉、木暮至、三浦達司、石井満5人の先生方が定年にて本学経済学部を退職なされます。私も同時に定年退職いたしますが、私事ですので自分についてはふれません。

本学経済学部は、昨年6月に創立満50周年を迎えましたが、5人の先生は皆大学及び学部の発展のため、長期にわたり中心的な役割を担ってこられた方々です。今回退職記念号の発刊にあたり、私は経済学部長として先生方の永年のご貢献をたたえると共に、送る言葉を述べさせていただきます。

武井昭先生は、大阪府に出生、1962年高崎経済大学に入学、卒業後早稲田大学大学院経済学研究科修士課程を修了されました。政治経済思想研究で著名な難波田春夫先生に師事しその学風を嗣がれて、広い社会の中で経済を位置づける「社会経済学」の立場を一貫して保持してこられました。

1969年高崎経済大学に助手として赴任され、その後順当に昇任して1984年教授に就任されました。学内要職として経済学科長、学生部長にも就かれましたが、とりわけ1996年からと2002年からとの2期計4年間勤められた附属産業研究所長としての御活躍は記憶に残ります。先生は、本学で行われている経済・経営研究を群馬県をはじめ北関東一円の産業界と結び、大学が地域社会に貢献する道確かなものとししました。また昨年刊行された『高崎経済大学五〇年史』は、武井先生の編集委員長としてのご努力なしには完成できなかったもので、感謝に堪えません。

山崎益吉先生は、群馬県甘楽町に出生され、富岡高等学校を経て1965年高崎経済大学を卒業されました。その後1969年青山学院大学大学院経済研究科修士課程を修了、同年4月ただちに高崎経済大学に助手として着任されました。先生のご専門は日本経済思想史であり、横井小楠の研究ではわが国有数の業績を残されています。先生は日本が戦後歩んだ経済主義一辺倒の風潮を嘆かれ、これを小楠など日本の儒教から学んだ道徳的英知でもって克服すべきことを論じてこられました。先生はすでに10冊を超える単著を公刊し、その精力は尽きる

ところがありません。

山崎先生は学内では学生の熱心な教育と併せて、大学運営にも尽力され、経済学科長、附属産業研究所長を経て、1996年から2年間第19代学長を務められました。ちょうど本学が2学部制に移った変動期でしたが、先生は高い理想を掲げ、すぐには実りませんでした。大学院設置の必要を訴えるなど、大学に新しい息吹をふきこもうとされました。

木暮至先生は、地元高崎市に出生され、前橋高等学校を経て1966年早稲田大学第一商学部を卒業。1972年同大学大学院商学研究科博士課程を単位取得退学なさいました。ご専門は経営管理論と組織論で、アメリカのバーナード経営学等から深く学ばれた業績によって、2005年早稲田大学から博士（商学）の学位を論文博士として授与されています。

先生は、1971年本学に助手として赴任され、順調に昇任を重ね1983年教授に就任されました。その後1996年の初代経済学部長をはじめ、附属産業研究所長や学生部長（2期）と学内要職を歴任され、2006年4月から1年半の期間に渡り第24代学長に就任なさいました。

また先生は、学外では群馬県最低賃金審議会会長や、群馬県生産性本部副会長等々多くの審議会、委員会の中核として活躍されてきました。先生の学識と温厚な人柄が、地域の行政と実業界から大きく評価され、先生がそれに応えてこられた事実が伺えます。

三浦達司先生は、1966年大阪工業大学工学部工業経営学科を卒業後、同年早稲田大学大学院理工学研究科に入られ、1973年同大学院理工学研究科博士課程を単位取得満期退学されました。その後先生は安田工業専門学校、早稲田大学、東京理科大学等で講師として生産工学・生産管理を講義また実験指導され、1979年本学経済学部経営学科に専任講師として赴任されました。

先生のご専門は生産管理・生産工学であり、なかでも日本工業規格（JIS）の研究では多数の顕著な業績を残されておいでです。これは、関連の学会や産業界からも高い評価を受けておられます。

先生は、本学では助教授を経て1986年教授に昇任され、今日に至りました。この間、経営学科長、就職委員長（2期）と評議員（2期）を勤められ、大学運営における貢献も記憶に新しいところであります。

石井満先生は、高崎市に出生、高崎高等学校を経て1966年東京理科大学理学

部数学科を卒業、ただちに同大学大学院理学研究科修士課程（統計学専攻）に進まれ、1968年同課程を修了されました。

石井先生は統計学をご専門とされ、とくに多変量解析の手法を用いて様々な現実問題を分析、推計するお仕事を重ねてこられました。近年は経営数学の領域で、企業倒産の統計学的分析等の研究にも力を入れておられ、高い評価を受けていると伺っています。

先生は群馬高等工業専門学校助教授を経て、1981年本学専任講師に赴任され、翌年助教授、その後1987年に教授に就任されました。先生は大学運営にも力を発揮され、学生部長を2期4年、また新設された附属情報センターの初代所長を務めてこられました。また学外の公的機関等でも多方面に及んで活躍され、いずれの分野でも高い見識と理論に裏打ちされた存在を示しておいでです。

来年度から、武井昭先生、山崎益吉先生、木暮至先生、三浦達司先生は特任教授として、また石井満先生は非常勤講師として、本学で引き続き教学にお力添えいただけますが、今回はひとつの大きな区切りであります。学部を代表して、5人の先生それぞれが果たしてこられたご貢献に再度お礼の言葉を申し上げます。ありがとうございました。お元気で過ごし下さい。